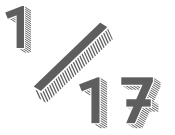




2025

めぐろキッズレポーター

2026



NEWS



古谷電機工業

目黒区の古谷電機工業は、半導体を洗う機械に使用されているプラスチックのネジを作る会社です。

INTERVIEW

社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

Q: 会社の名前の由来は？

A: 創業当初、電気部品の製造がメインだったことです。



TOPICS

工場の特徴

- ① たくさんの依頼を受ける一番売れている物は、一ヶ月に一万個の依頼を受けることもあります。
- ② 機械がある
12台の機械があり、手作業をしている部分もあります。
- ③ 目黒に会社がある
初代社長が江戸川区や江東区の深川あたりの出身で、工場を選びました。

MATOME

古谷電機工業はおもしろいきかいがいっぱいある場所です

おもしろいきかいがいっぱいあって、いろいろなじょうほうがある場所でした。





2025

めぐろキッズレポーター

2026

1/17

NEWS



古谷電機工業に行ってきました。

古谷電機工業は、プラスチックのネジを作っている工場です。創業78年の工場です。

INTERVIEW

社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

Q:なぜ会社を引き継いだのですか?

A:ろくろ職人を見てかっこいいと感じたこと、お客様が喜んでいる姿を見るのが良いと思ったからです。



TOPICS

- ① ここがすごい
1日に500個の製造と500個の仕上げを交互に行い、平均して1日250個を製造しています。
- ② 会社のとくちょう
騒音対策は、吸音材を敷き詰めています。音は、50dBを超えないよう管理しています。
- ③ こだわり・思い
ロゴについては、今の社長がデザイナーと打ち合わせをして作りました。「削って虹色の幸せを生み出す」という意味が込められています。

MATOME

古谷電機工業はお客様に必要とされている場所です

創業78年たっても、お客様に必要とされていて、すごいなと思いました。みなさんも行ってください。





2025

めぐるキッズレポーター

2026

1/17

NEWS



古谷電機工業にいつてきました

古谷電機工業は、そう業78年もたつ、プラスチック素材を加工して、ねじなどを作る会社です。お客さんによろこんでもらえるように取り組んでいました。

INTERVIEW

社長インタビュー

TOPICS

古谷 社長

インタビュー

Q:ロゴについて教えてください。

A:今の社長が打ち合わせをして作りました。「削って虹色の幸せを生み出す」という思い。



- ① 1日に約250個せいぞうしている500個のせいぞうと500個の仕上げを交ごに行います。
- ② 全て機械がやっていない袋づめや端の保ご材をはがす作業は、手作業で行っています。
- ③ うれしいと感じるしゅんかん
お客さんの検査部から「御社のシールがはってあると安心するんです。」と言われた時です。



MATOME

古谷電機工業はみんなを幸せにできる場所です

社長は、会社を大きくするよりも社員を幸せにすることを大事にしていました。そして、お客さんにも幸せになるような部品をとどけようとしていました。





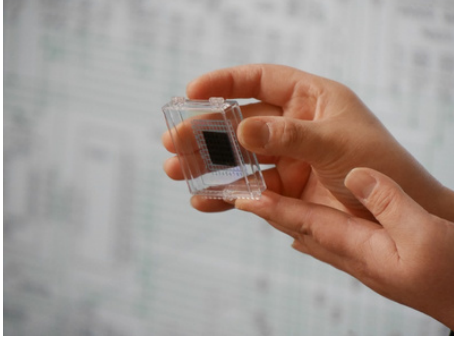
2025

めぐるキッズレポーター

2026

1 / 17

NEWS



古谷電機工業にいつてきました

ぼくたちは、古谷電機のこうじょうにいつてきました。そこは、はんどうたいをあらう機械をつくるねじをつくっているばしよです。

INTERVIEW

社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

Q:会社の名前の由来は？

A:創業当初、電気部品の製造がメインだったことに由来します。



TOPICS

- ① 1日約なんこつくっている？
1日で平均して250個を製造しています。
- ② 今つかわれている機械は、いつからつかわれていますか？
お客様から高い品質をもとめられるため常に良い機械へと入れかえています。この10月にも機械を更新しました。
- ③ なぜ会社をひきついたのでですか？
ろくろしよくにんをみてかっこいいと感じたことと、お客様の喜んでくれるすがたがよいとおもったからです。



MATOME

古谷電機工業は半導体をきれいにする機械のねじをつくる場所です

ぼくは、古谷電機工業でびっくりしたことは、建物が家みたいだったのがびっくりしました。





2025

めぐろキッズレポーター

2026

1/17

NEWS



古谷電機工業に行きました。

古谷電機工業は目黒区中央町にあります。

プラスチックのネジを作っている創業78年の会社です。

INTERVIEW

社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

Q:なぜ会社を引き継いだのですか？

A:ろくろ職人を見てかっこいいと感じた事と、お客様が喜んでいる姿を見るのが良いと思ったからです。



TOPICS

① 機械がすごい！！

お客様から高い品質を求められるため、常に良い機械へと入れ替えています。

② 資本金を集めた方法とは？

創業者が働いて貯めた資金で、資本金を作りました。

③ 思うこと

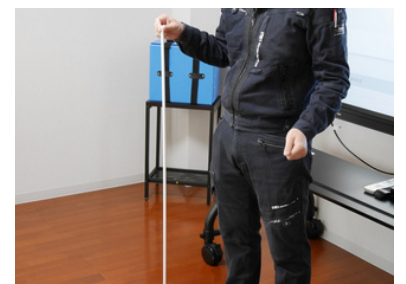
「どうして毎年難しくなるのだろう」と常に感じています。常にもっと良くなれないかを考え続けており、仕事に終わりはないと思っています。



MATOME

古谷電機工業はお客様に必要とされている場所です

古谷電機工業は、創業から78年が経ちましたが、今でもお客様に必要とされています。ネジは私達の生活に必要なものなので、これからもたよりたいです。





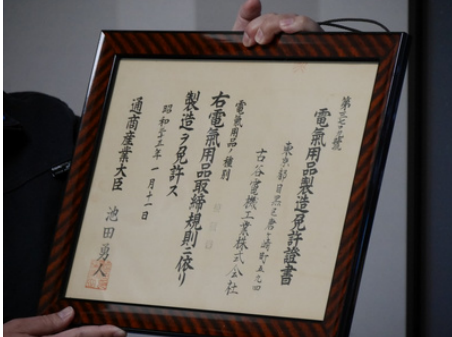
2025

めぐろキッズレポーター

2026

1/17

NEWS



古谷電機工業に行ってきました
ぼくたちは、12月20日に古谷電機工業の工場
に行ってインタビューをしてきました。

INTERVIEW

社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

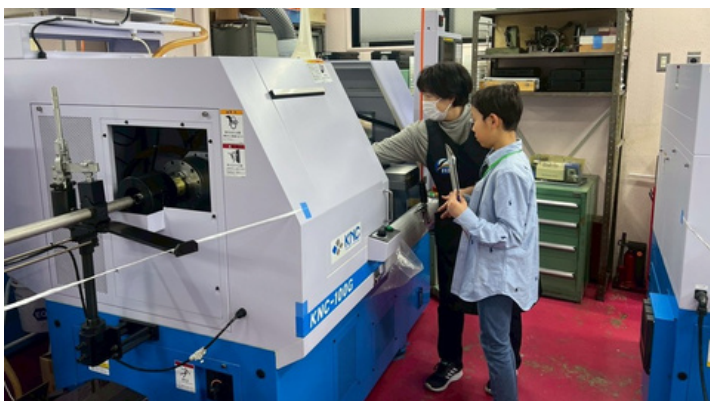
Q: うれしいと感じるしゅん
間は？

A: お客様の検査部の方
から「御社のシールがはって
あると安心」といってもら
ったときだそうです。



TOPICS

- ① 何をしている会社か
新品のプラスチックを使ってネジ
などを作っています。
- ② 1番売れている形はなにか
ネジです。世界に進出している大企
業から1ヶ月に1万個の依頼がくるこ
とも！
- ③ 削りかすがどうなるのか
そのまま廃棄処理されます。どんな
薬品でもとけずリサイクルもむずか
しいためです。リサイクル可能か研
究中です。



MATOME

古谷電機工業は住たく地であり2つに分かれている場所です

ぼくは、1mm以下の細かい大きさにNGかOKかが決ま
るのを知って、ねじは1mm以下のオーバーでダメになっ
てしまうことがわかりました。





2025

めぐろキッズレポーター

2026

1/17

NEWS



古谷電機工業に行ってきました

古谷電機工業では主に半導体を洗う機械に使用されるネジ部品を作っていて、お客様から高い品質を求められ、しんらいされている会社でした。

INTERVIEW

社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

Q:ロゴにはどんな意味がありますか？

A:「削って虹色の幸せを生み出す」という意味がこめられています。



TOPICS

古谷電機工業の今

- ① お客様からのこえがすごい！
じっさいにお客様の検査部の方から「御社のシールが貼ってあると安心する」と言われた事がある。
- ② 騒音対策がすごい
普通の家をリフォームしているのに吸音材をしき詰めて50dBをこえないようにしているそうです。
- ③ プラスチックの切りくずの処理
どんな薬品でも溶けずリサイクルがむずかしいため、はいき処理されています。ですが現在、東京科学大学などの教授たちがリサイクル可能か研究中です！



MATOME

古谷電機工業はいろいろな人から必要とされている場所です

スタッフさんの対応も温かく、なにより、お客様からのしんらいや必要とされている場所でした。社長もお客様に必要とされるかぎりやめないと言っていたので、ぜひ皆さんもおうえんしてみてください。





2025

めぐろキッズレポーター

2026

1/17

NEWS



古谷電機工業にいつてきました!!

古谷電機工業には機械が12台あります。古谷電機工業はいろんな部品をつくらっている会社です。いろいろな方々が利用できるよにつくらっています。

INTERVIEW

社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

Q:会社の名前の由来は何ですか？

A:もともと電気部品のせいぞろがメインだったことが由来します。



TOPICS

古谷電機工業のここがすごい

- ① 1日250個の部品を作る
1日500個のせいぞろと500個の仕上げを交ごに行い、250個もせいぞろしている。
- ② そう音対策をしている
50dBを超えないよにきゅう音材をしきつめていて、対さくはバッチリ。
- ③ 会社のロゴマーク
今の社長がデザイナーと打ち合わせをして作り「削ると虹色の幸せを生み出す」という意味です。

MATOME

古谷電機工業は当時目黒の田舎だった場所にありま

なんと古谷電機工業は世界に進出している大企業の部品を作っています。みなさんぜひつかってみてください。





2025

めぐろキッズレポーター

2026

1/17

NEWS

2025年12月20日古谷電機工業



古谷電機工業にいきました

古谷電機工業は、1947年に創業し、加工技術でいろいろな物を加工している会社でした。

INTERVIEW

社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

Q:削った残りがす(プラスチックのきりくず)はどうなりますか?

A:そのまま廃棄処理されます。どんな薬品でも溶けず、リサイクルが難しいためです。現在、東京科学大学などの教授たちがリサイクル可能か研究中です。



TOPICS

古谷電機工業のここがすごい

- ① 1日に約250個作っている
古谷電機工業では500個の製造と500個の仕上げを交互に行い、平均して1日250個製造しているそうです。
- ② 作ったネジは何十円から何千円
加工の難しさによって異なり、何十円から何千円まで幅がありました。
- ③ 最後の検査はハラハラドキドキ
最後の検査は1mmでもずれたらNG!とてもハラハラドキドキしました。



MATOME

古谷電機工業はいろいろな物を加工できる

古谷電機工業はいろいろな物を加工し複雑な加工ができます。





2025

めぐろキッズレポーター

2026

1
17

NEWS



古谷電機工業に行ってきました

12月20日に古谷電機工業に行ってきました。古谷電機工業はプラスチックを加工して色々なものを作っています。とくに半導体を洗う機械に使うプラスチックのネジが1番売れていると言っていました。

INTERVIEW

社長インタビュー

TOPICS

古谷 社長

インタビュー

Q:なぜ会社を続けているのですか?

A:お客様に必要とされているからです。創業から78年が経ちましたが、必要とされなくなったら終わりだと考えています。



- ① 平均で1日に250こプラスチックを加工している500個の製造と500個の仕上げを交互に行って平均250個作っています。
- ② 外に大きな音が聞こえない吸音材を敷き詰めて50dBを超えないように管理しています。
- ③ 会社の建物が家っぽい普通の家を会社が買い取り、リフォームしている。

MATOME

古谷電機工業は社長と社員の関係が深い場所です

みんな笑顔で社長と社員がそんなに差がなくていい会社だと思いました。





2025

めぐろキッズレポーター

2026

1/17

NEWS



古谷電機工業に行ってきました。

12月20日に古谷電機工業に行ってきました。

古谷電機工業は、学芸大学駅・祐天寺駅より徒歩12分の場所にあります。

INTERVIEW

社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

Q:嬉しいと感じる瞬間は？

A:お客様の検査部の方から「おん社のシールが貼ってあると安心するんです」と言われたときです。



TOPICS

古谷電機工業

① ロゴの意味

ロゴは、古谷社長とデザイナーさんが、打ち合わせをして作りました。ロゴの意味は「削って虹色の幸せを生み出す」という意味が込められています。

② 今の機械について

お客様から高い品質を求められるから、常に良い機械へと入れ替えています。そして、昨年の10月にも機械を更新したそうです。

③ 仕事をしているときの思い

「どうして毎年難しくなるのだろう」と感じているそうです。また、常にもっと良くならないかと考え続けており、仕事に終わりはないと思っているそうです。

MATOME

古谷電機工業は色々な人が笑顔になれる場所です

古谷電機工業は住宅地にあるので防音対策をして周りの人が笑顔になる場所でした。ぜひ皆さんも古谷電機工業の製品を買ってみてください。





2025

めぐろキッズレポーター

2026

1/17

NEWS



古谷電機工業に行ってきました。

古谷電機工業ではプラスチックつぎての加工を機械で削って造っています。1こ何十円のものとは何千円するものがあるそうです。

INTERVIEW

社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

Q:なぜ社長を引き継いだのですか?

A:ろくろ職人がフリーハンドでキレイに造っているのを見て「カッコいい」と感じたこととお客様が喜んでいる姿を見るのが良いと思ったからです。



TOPICS

古谷電機工業のここがすごい!

- ① 資本金は創業者が働いて貯めた資金
最初の社長「古谷こうざぶろう」が自分で働き貯めたお金が資本金となったそうです。
- ② 会社の建物は家のような見た目
ふつうの家を会社が買い取り、リフォームをして使用していて機械は12台もあるそう。
- ③ 社長になった時の気持ち
2020年のコロナ禍で、誰にも相談できず苦しい時期に、会社を大きくすることよりも「一緒に働く社員が幸せになれる会社にしたい」という思いで社長になったそうです。

MATOME

古谷電機工業はかせない部品を造っている場所です

古谷電機工業はひそかにスマホの中に入っている「半導体」を洗う機械に使用されているかせない部品を造っている工場です。





2025

めぐろキッズレポーター

2026

1/17

NEWS



古谷電機工業に行ってきました

古谷電機工業株式会社はプラスチックのネジを作っているところです。古谷電機工業株式会社ではプラスチック素材のCNC旋盤受託加工をしています。

INTERVIEW

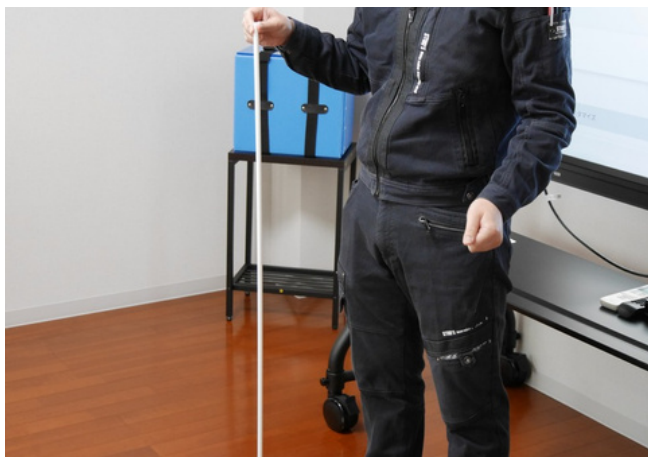
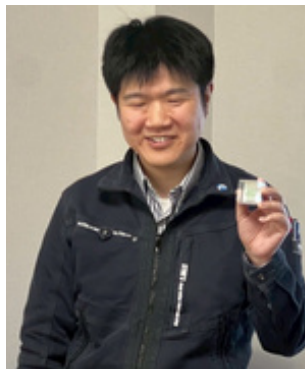
社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

Q:CNC旋盤とはなんですか。

A:コンピューターの数値制御 (Numerical Control) ができる機械のことです。



TOPICS

- ① **ほとんど機械**
機械は12台あり、常に良い機械へと入れ替えている。
- ② **使用している素材**
プラスチック製の新品もの。
- ③ **ネジ製品について**
ネジは半導体を洗う機械に使用されます。ネジ一個の値段は加工の難しさによって異なり、何十～何千円まで幅があります。出来上がったネジから何個かはずれがないか、確認します。

MATOME

古谷電機工業はネジにこだわりがある場所です

お客様に高い品質を求められているのでたくさん工夫しているんだなあ、と思いました。

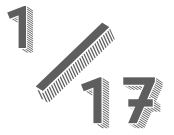




2025

めぐろキッズレポーター

2026



NEWS



古谷電機工業の技術の秘密

12月20日に、古谷電機工業に取材をしに行きました。古谷電機工業さんは主にプラスチックの加工が仕事です。

INTERVIEW

社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

今の社長、古谷考輝さんが会社を継いだときはちょうどコロナ禍、だれにも相談できず苦しい時期に「一緒に働く社員が幸せになれる会社にした」という思いで社長になったそうです。



TOPICS

① ネジ部品について

写真の棒は加工でねじになるまえの素材です。古谷電機工業さんで作られているネジ部品、一日に平均250個製造し、製造されたネジ部品は半導体を洗う機械に使用されているそうです。

② 会社について

家のような見た目の会社の古谷電機工業さん。普通の家を買取り、リフォームして使っているそうです。住宅街の中の工場、防音施策については、吸音材を敷き詰めているそうです。目黒区に申請し、50dBを超えないようにしているそうです。

③ 社長の思いやこだわり

社長の会社を続ける理由について「お客様に必要とされているからです。創業から78年が経ちましたが、必要とされなくなったら終わりだとかんがえています。」と答えてくれました。社長の強いこだわりが感じられました。他にも社長の、嬉しいと感じることが、お客様から「御社のシールが貼ってあると安心できます。」と言われた時だそうです。ロゴマークにもつよいこだわりがあるようで、デザイナーさんと今の社長が打ち合わせをしてつくったそうです。「削って虹色の幸せを生み出す」という意味が込められているそうです。



MATOME

古谷電機工業は社員さんのことを第一に考えた場所です

古谷電機工業さんに取材に行き、私は、古谷さんのように人のことを常に考えて、なにげない小さなことでも考えることのできるような人になれたらいいなと思います。





2025

めぐろキッズレポーター

2026

1/17

NEWS



古谷電機工業の半導体の洗淨部品作りに迫ってきた！

12月20日、古谷電機工業に取材に行きました。古谷電機工業はなんと半導体の洗淨部品を作っているすごい会社です。外見はまるで家のようにした。

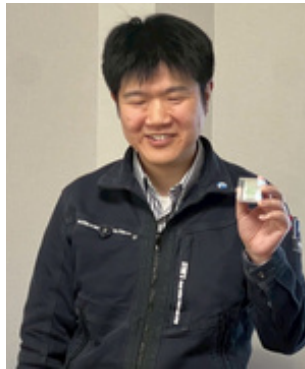
INTERVIEW

社長インタビュー

古谷 社長

インタビュー

社長に何を作っているのか聞いてみると、洗淨部品のプラスチックの継手を作っていることがわかりました。



TOPICS

- ① 古谷電機工業の洗淨部品の必要性
半導体を作るときには半導体を何度も何度も洗わないといけないそうで、そのため大切な部品を作っていることが僕は凄いなと思いました。
- ② プラスチック部品のカスはどうなるのか。
少なくとも今はリサイクルできないそうですが、すごい人がリサイクルできるか調べているそうです。
- ③ 社長になったときの気持ち
会社を大きくすることより社員のことを考えていたそうです。

MATOME

古谷電機工業は日本の半導体を作る上で大切な場所です

僕は、古谷電機工業は日本の半導体作成の大切な部品を作るとても凄い場所で日本の未来に貢献する会社になっていると思います。

